

D地区における捕獲場所の選定基準の検討

「奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画」（以下、「特定計画」という。）では、平成 29 年度以降、管理地区（D 地区）のうち旧奈良市域を対象に、農業被害低減のための捕獲を実施している。捕獲は、農業被害アンケート調査及び生息密度調査の結果を踏まえ、「農業被害防止対策を実施しているにも関わらず被害が生じ、農業被害意識が高く、シカの生息密度が高い地域」を対象に選定し、実施されてきた。今年度、従来捕獲実施対象地区ではない帯解地区より捕獲の要請があったことから、農業被害状況及びシカの生息状況等の結果を踏まえ、D地区における捕獲場所の選定について検討を行った。



図 1 帯解地区の位置（東市地区の南、精華地区の西）

※「山町」は下山町、山村町、帯解開拓町からなる

1. 帯解地区からの要請及び対応

捕獲実施場所の検討フロー（図 2）に基づき、村上委員及び高柳委員からの助言を受け、以下の方針で検討を進めた。

- ① 地元より捕獲要望を書面で提出
- ② 被害の訴えをもとに実際の被害の調査（農業被害アンケート調査、現地確認等）を行う
- ③ 調査の結果から、捕獲実施の基準を検討し、来年度の捕獲範囲に含められるか検討する。

2. D 地区における捕獲場所の選定基準

D 地区における捕獲場所の選定基準を整理した。

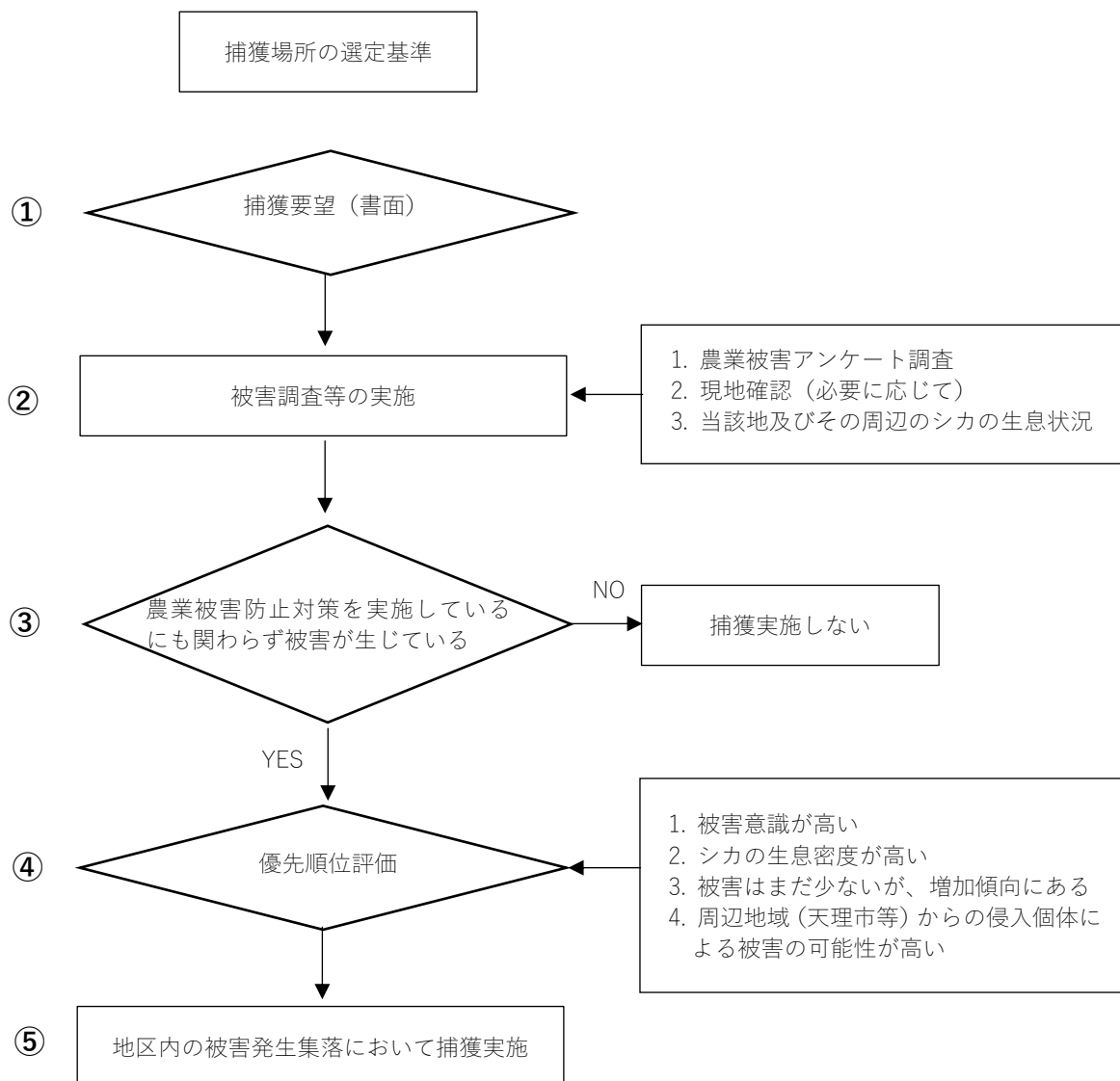


図 2 捕獲実施場所を検討するためのフロー

- ① 被害発生集落からの捕獲要望が書面により奈良県に提出、受理される（令和2年度以降）。
なお、捕獲実施を検討する単位は、地区自治連合会とする。
- ② 被害の訴えをもとに実際の被害等の調査（農業被害アンケート調査、現地確認、当該地及びその周辺のシカの生息状況等）を行う。
- ③ 農業被害防止対策を実施しているにも関わらず被害が生じている地区であれば、捕獲を実施する方向で検討する。
- ④ 農業被害アンケート調査及びシカの生息状況調査結果等から、以下の順に優先度を高くして捕獲実施場所を選定する。
 1. 被害意識が高いところを最も優先度高く評価する。
 2. シカの生息密度が高いところについても、被害発生リスクが高いため、次に優先度を高くする。
 3. 被害はまだ少ないが、過年度と比較し、被害が増加傾向にあるならば、今後被害拡大リスクが高いため、優先度を高くする。
 4. 周辺地域（天理市等）からの侵入個体は、保護すべき「奈良のシカ」とは異なる集団と考えられることから、周辺地域からの侵入個体による被害の可能性が高い場所については優先度を高くする。
- ⑤ ④で優先度の高い地区における実際の被害発生集落において、捕獲を実施する。

3. 帯解地区からの要請及び対応

帯解地区（山町）は現時点では被害は少ないが、被害の拡大途上と考えられ、被害発生箇所においては対策を実施しているにも関わらず被害が発生していた。また、周辺のシカの生息密度は増加傾向にあり、天理市に近く位置している帯解地区は、周辺からの別の集団の個体が侵入してくるリスクがあると考えられる。

このため、捕獲実施場所の検討フロー（図2）に従い、帯解地区（山町）における捕獲実施は妥当と考えられ、令和3年度から捕獲実施地区に含めることとした。